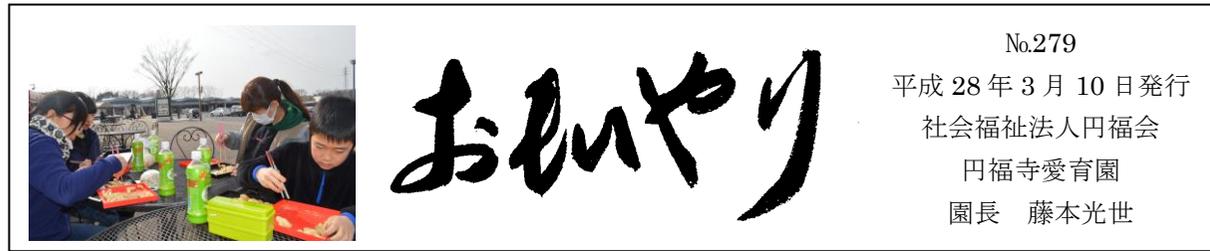


川口市で開催された第二回箸りんぴっく大会に行く途中です。サービスエリアで練習。



知るしん放映

園長 藤本光世

2月19日(金)にNHK長野放送局制作「箸ピー」にかけた冬一ある児童養護施設の子ども達一が放映されました。皆様からたくさんの感想をお寄せいただきました。ありがとうございます。

12月半ばに放映のお話がありました。若いディレクターさんが当園のホームページを見て、箸ピーの取り組みに興味をもたれたのでした。『箸ピーをとおした子どもの成長を撮りたい』が制作の目的でした。でも、番組になるかどうかは分かりませんでした。

児童養護施設の子どもの生活の番組化という、その趣旨は、子ども達の生い立ちの悲惨さを訴え、あるいは子ども達を支える社会福祉の不備、資金の不足等を訴え、世間の同情を買うといったものがほとんどであったような気がします。私はそれらの放映に児童養護施設に付きまとう暗いイメージを感じていました。

でも、今の愛育園は違うのです。子ども達は、愛育園の生活に愛着を持ち明るく過ごしています。愛育園の養育は、子ども達の可能性を引き出しています。それぞれの子が、「夢」をもって、その実現のために毎日頑張っています。それは、全員が毎朝6時に起床して大きな声でお参りをし、「はきものをそろえる」を唱和して、朝食を残さず食べ、みんな進んで学校に行く生活に表れています。皆勤賞をとる児童が続出して、成績は向上し、信州大学工学部に合格する児童も表れています。クラブ活動や習い事にも頑張っています。

私は、そんな明るく頑張っている子ども達の様子を収録した番組にして欲しかった。愛育園の養育はこんなにも素晴らしいのですよと、世間に訴える作品にして欲しかった。集団生活を生かした愛育園の養育は、家庭の養育に勝るところをたくさん持っていますよ、参考にしてください。そう訴える作品にして欲しかったのです。

いったい、箸ピーを通して短期間に子どもの成長があるのだろうか、これは私の正直な気持ちでした。6年前に箸ピーを始めた理由は子どもの学力向上でした。児童養護施設の使命は、子どもを自立させることです。もっと具体的に言うと、18歳の高校卒業時に愛育園を出る時、子どもが自分の力で生きていく力を、在園中につけてあげることです。その最も重要な力が学力なのです。学力こそ、自立の大きな力になります。私がこの仕事に就いた8年前は、どの子どもの子も低学力でした。中学3年時の総合テスト5科目の合計が200点に満たない。全員です。高校へ入れるかどうか

も危うい学力でした。そして、彼らの鉛筆の持ち方を見ると、ひどいものでした。握り鉛筆です。これでは、文字が早く書けません。美しく書けません。文字を書くのが苦手になります。

だから何としても正しく鉛筆を持たせたい、これが私の願いでした。正しく鉛筆を持つことは学力向上の基礎となるでしょう。でも、どうしたら子ども達全員が自分から鉛筆を正しく持つようにできるのでしょうか。この時、深志の書道の先生(硬筆の持ち方と文字の研究者)から、箸を正しく持ち内側の箸(固定している箸)を抜くと、正しい鉛筆の持ち方になります、と教えていただいたことを思い出しました。箸ピーは上田高校OBで(株)コミー社長の小宮山栄様が国際箸学会を立ち上げ、箸ピーゲームを考案していることを日本経済新聞のコラムから知っていました。上田高校同窓生に小宮山会長様とつなげてもらって、当園の箸ピー大会が実現しました。

信州大学工学部へ合格した彼は、中学時代に第1回から第3回まで三連覇していました。それが、信州大学工学部合格につながっているのだろうか。いや、高校生活の充実はそれが一つの要素になっているに違いない。そう思いました。でも、収録期間中の子どもの成長はあるのだろうか。正直な気持ちでした。

番組は、見事にHちゃんの成長をとらえていました。Hちゃんは、ピーナッツの運びが速いので、時々落としてしまうのです。落とすとふてくされたり、諦めてしまう。実際に今年の第1回箸りんぴっくではピーナッツを机の下に落として負けていました。

ディレクターさんは、Hちゃんを追いたい、そう話されました。Hちゃんの成長を撮りたい。その見通しは見事でした。左手が苦手な練習するHちゃん。左手が速いAちゃんと対比する。箸りんぴっくでは参加者に、速いおじさんがいる。このおじさんはピーナッツを並べて置いて二個飛ばしをする。愛育園では絶対にやってはいけないルール違反だ。ここに石崎保育士が動揺する子ども達の心を察して立て直す。なんとHちゃんは決勝でピーナッツを落としてしまう。ドラマが起きた。不安げに、でも心で声援を送る石崎保育士の表情。最後まで諦めず左手で挽回したHちゃん。映像はそれらをしっかりとらえていました。

そこに、選ばれなくて泣いていたSちゃん存在をからめて、見事な構成となりました。だから、大勢の皆さんから感動した、涙が出たといいただいたのだと思います。

随所に、子ども達がのびのびと明るく生活している様子や表情が、映されていました。その姿から、愛育園の養育は見えていました。30分以上の園長のインタビューは全く出ませんでした。これが良かった。言葉より映像の力、これが如何なく発揮されて、見る人に訴えていました。そこに、信州大学工学部に合格した西沢将大君や中学生になるAちゃんの新しい生活への展開が入り、希望に満ちたエンディングとなりました。

元篠ノ井高等学校長の浦澤規裕先生のご感想を、ご許可をいただき掲載いたします。

『先日は「知るしん」お手紙をいただき、当夜を楽しみにしていました。(中略)

園児さんたちが生き生きとゲームに取り組む姿に久しぶりに感動しました。抱えた心の悩みもあ

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

るのだろうが、少しも感じさせない日々の生活に打ち込んでいること、日常の大変なご苦勞も藤本先生はじめ先生方の明るい笑顔で子どもさんたちに向かい合っていること。何とも言えない雰囲気心打たれました。大会で優勝した「Hちゃん」の嬉しそうな顔。代表に漏れ、悔し涙の園児を優しく抱きしめている先生の言動に。きっと背負っている重みを乗り越え強く成長され、また、信大に進学される方。人の傷みの分かる大人に、それぞれなっていくのだろうと思いました。

優勝後記念撮影。藤本先生の喜んでる姿、園のますますの成長と共に心にしみるひと時でした。ありがとうございました。

先生方はじめ皆様のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。』

第二回 箸りんぴっく大会

まごころ・そよかぜホーム長 石崎早織

2月6日は待ちに待った箸りんぴっくの大会が行われました。この大会に出場できるのは5人。選手に選ばれるために、日々子どもたちは一生懸命連取に取り組んできました。選手発表は大会前日の夕方のお参りで行われました。自分の名前が呼ばれるのかどうなのか……。みんなドキドキしながら園長先生の話真剣に聞いていました。メンバーが発表され、選ばれなかった子どもたちの表情を見ると、悔しい気持ちがとても伝わってきました。ただ選ばれなかったからといって自分には関係ないという子どもたちは一人もいませんでした。夕食後は大会に出場する選手とミーティングを行いました。選手に選ばれなかったみんなの為に一生懸命頑張ろうと気持ちを高め当日を迎えました。

箸りんぴっくは埼玉県川口市で行われました。みんなに見送られながら車で目的地に向かいます。車内では普段の雰囲気とはまた違い、いつも以上にたくさん子ども達と話をすることができました。去年の大会も私は参加させていただきましたが、こういった移動の時間にゆっくり子どもと話せるのがとても楽しく、今年も学校の事や、進路のことなど話ができとても充実した時間になりました。

だんだんと目的地に近づいてくると、子ども達も少しずつ緊張し始めたのか、口数が減ってきていました。練習通りやれば大丈夫！！と励まし会場に到着しました。会場に着くとすぐに練習に取り組み、いよいよ本番です。個人戦からスタートしましたが、最初は緊張しうまく落花生を運ぶことができませんでしたが、2回目は落ち着いて練習の成果を出すことが出来て一安心。しかし、全員が予選突破することはできませんでしたが、愛育園からは3名の子どもが予選を通り、決勝に進むことが出来ていました。決勝に選ばれた方の中には落花生を一気に二つ運ぶ人もいました。正直絶対負けたくないと思いました。子ども達も同じ気持ちだったと思います。だから応援にも自然と力が入りました。決勝戦が始まり最初はみんなとてもいい調子でスタート出来ていましたが、途中で落花生を落としてしまうハプニングが起きました。愛育園で優勝したHちゃんです。見ている私たちはとてもハラハラしていましたが、当の本人はとても落ち着いており、最後まで諦めることなくやり切っていました。たぶん彼女も絶対負けたくないと思ったんだと思います。その思いが

(平成28年3月10日発行 月刊「円福」476号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

姿勢で現れていました。優勝は表彰式までわかりません。ドキドキしながら今度は駅伝リレーです。去年愛育園は団体戦で優勝をすることができました。今年も絶対優勝して愛育園のみんなに報告したいという思いもありました。その為みんなの力が一気に集中に変わりました。一人がやっているときはみんなで応援し、最後まで一生懸命取り組んでいました。アンカーになったRさん。いつもはプレッシャーに弱く本番中々いつもの力を出すことができない彼女ですが、この日は違いました。アンカーとしての責任を果たす為、一生懸命で本当に落花生を運ぶスピードがとても速かったです。途中まで負けていた愛育園も最後のアンカーで一気に追い越し、優勝することができました。本当に嬉しかったです。そして全ての競技が終わりいよいよ表彰式です。3位から呼ばれましたが、子ども達の名前は呼ばれず、2位でも呼ばれず、もしかすると、という気持ちで優勝者の名前を呼ばれるのを待ちました。優勝……。Hちゃんと呼ばれたとき本当に嬉しく、みんな自分の事にように喜びました。本当に本当に嬉しかったです。

愛育園では12月から箸ピーの練習に取り組んできました。毎日毎日練習をしてきました。その結果個人戦優勝、団体戦優勝という素晴らしい結果を出すことができました。継続は力なり。箸ピーを通し、継続することの大切、やり続けることで自分の力になっていくことを子どもたちに感じてもらうことができたのではないかなと思います。この実践を今後の生活に生かせるよう、またこれからもたくさんの事に挑戦できるよう応援していきたいです。



第二回 箸オリンピック大会

あおぞらホーム長 富沢正樹

2月6日、国際箸学会様が主催する「第二回 箸オリンピック」に参加してまいりました。その一週間には、園で「箸ピー大会」が行ないました。この二つの大会に向けて、12月から練習を重ねてきた子ども達。本当に夢中になって取り組んできました。

「箸オリンピック」は5名を選抜しての参加ただけに、誰が選ばれのか、「箸ピー大会」から一週間の間、発表前日まで、みんなドキドキしながら毎日を過ごしました。

園長先生から前日の夜、出場メンバーの発表があると、今年は、去年よりも、メンバーに選ばれなかった子たちの落胆ぶりが激しかった様に思います。それだけ「行きたい」という思いがあって、

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

また、これまでの取り組みに自信があったのだと思います。だからこそ、出場するメンバーは、そんな皆の思いを背負って園の代表として戦う事、そして、出場できない子たちには、選抜メンバーが力を出し切れるためには皆の応援が必要な事を伝えました。

「箸リンピック」当日、会場となる埼玉県川口市へ向かいました。始めはリラックスしていた子たちも、会場が近付いてくると口数が減り緊張が高まっていくのがわかりました。少し早くついて、一番のりで会場に入ると、練習を開始しました。徐々に他の出場者が集まってくると、更に緊張していくのがわかりました。この緊張の中でどれだけ力が出せるのか心配になりましたが、更に予期せぬ出来事が起こりました。

個人戦が始まると、園で行なってきたルールと違う「二個同時運び」や「箱の入れ替え」認められ、更に窮地に追い込まれました。緊張とルールの違いに動揺は相当のものだったと思いますが、そんな状況だからこそ、これまでの真価が問われたと思います。5人とも自分がベストを尽くす事に専念して、集中力を発揮していました。本当に立派な姿でした。

逆境を跳ね除けて、小学5年生のHちゃんが優勝しましたが、他の皆も本当に最後まで頑張った良い記録を残す事ができました。団体戦でも力を合わせて優勝する事ができました。

私は、今回の「箸リンピック」を本当に良い機会を与えて頂いたと思っております。ただただ記録を出す事だけの為に技術のみを鍛えてきたのなら、今回優勝することは出来なかったのではないかと思います。そこには、日々の生活から何事にも一生懸命に取り組んできた事で得た、目には見えない心の強さを子ども達自身が「箸ピー」を通して育んでくる事ができたからだと感じています。

これからも園の生活や行事を通して、そんな心の強さを育てたらと思います。

国際箸学会の皆さま、素晴らしい機会をありがとうございました。

箸りんびっく 児童感想

2月6日に埼玉県川口市で箸りんびっくがありました。園から5人選ばれて代表としていきます。私は「去年も行ってるし今年も行けないかな」と思いましたが、一番に私が呼ばれたのでびっくりしました。会場に着くとはじめに練習をしてから本番をやりました。前回の大会とは違ってとても早い人がたくさんいて、中にはルール違反（園のルールとは違う）している人もいました。個人戦の予選をやり、なんと私は決勝戦に出る事ができ、本番に臨みました。右手の途中で豆を床に落としてしまい、正座をしていたので豆が取りにくくて大変でしたが、なんとか机に潜って箸で落花生を取る事が出来ました。左手もいつもより早く運べました。結果は団体戦優勝、個人戦でも優勝することが出来ました。嬉しかったです。また優勝したら貰える鏡も貰えて嬉しかったです。(小5H・W)

今年も川口市で箸りんびっくが行われました。箸りんびっくに行ける人の名前を発表する時は行きたいとは思っていましたが、まさか本当に自分が行けるとは思ってもみませんでした。なので名前が呼ばれた時は本当に嬉しかったし、びっくりしました。いけない人たちがとても悔しそうな顔

(平成28年3月10日発行 月刊「円福」476号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

をしていたので、私は「行けない人の分まで自分が頑張ろう」と思いました。大会当日。出発の会の時みんな行きたかったはずなのに、とても気持ちよく送り出してくれたので、とても嬉しかったです。大会が終わり愛育園についてから下の下駄箱の傍に「ひもを引いてください」と書いてあるので、ひもを引っ張ったら奥の方からみんなが出てきてビックリしました。みんなが書いてくれたメッセージを読むと箸りんびっく優勝おめでとうと書いてくれていてとても嬉しかったです。(小6A・T)

今年も、メンバーに選ばれることができました。でも、心配な事がありました。去年、緊張しすぎて、いつもの記録よりだいぶ少ない数で終わってしまったからです。今年も緊張しました。でも、去年のような形になるのは嫌だったので、緊張に負けない様に頑張りました。そしたら、決勝に残る事ができました。優勝は出来なかったけど、自分の力を出し切れたことが嬉しかったです。ありがとうございました。(高1 Y. S)

初めてのスキー合宿

副園長 青谷 幸治

毎年日帰りでスキーを楽しんでいましたが、今年初めて一泊二日で白馬でのスキー合宿を計画しました。この一年、子どもたちが自分の目標に向かって一生懸命取り組み、事故や問題行動もなく生活を送ってきたことが職員としても嬉しく子どもたちのために思い出に残る行事を作りたいと思っていました。

1月初旬に子どもたちにスキー合宿に行くことを園長先生から発表され、子どもたちの反応は予想以上に興奮していました。2月13日まで一ヶ月間。指折り数えて、当日が来るのを待ち望んでいる子どもたちの純粋な気持ちが伝わってきました。

当日は、スキー場の天候は雨でしたがスキーを滑るには問題ありませんでした。子どもたちも雨に中でも必死に滑りました。2日目も朝から雨が降っていましたが、子どもたちが滑るころには雨もやみ晴れ間がのぞきました。一本でも多く滑りたいという気持ちもあり時間いっぱい満足いくまでスキーを楽しみました。

この2日間で、子どもたちの一年間を象徴するような行動を見ることができました。

ホテルのバイキングでは個室を利用しました。出入りするのにスリッパを使用します。どの子どもスリッパを揃えていました。また慌てず人に先を譲りながらバイキングを楽しんでいました。エレベーターが混んでいれば階段を使い、お風呂の洗い場が混んでいれば大きい子が小さい子に先を譲っていました。もしかして当たり前のことかも知れませんが園での生活でできていることが自然と外でもできていることに感心しました。今の子どもたちであれば、どこに連れて行ってあげても安心できるということも再認識しました。

一日目の夜は恒例の中高生とのお茶会です。スキーに来たことやホテルに泊まれたことを振り返り感謝の言葉がでていました。また先生方もミーティングを行い、子どもたちのスキーの上達具合を報告しながら二日目の班や担当職員を決めたりと深夜まで真剣に話し合いました。普段の業務

とはまた違う話し合いができたことも先生方にとって収穫だったと思います。ぜひ来年も子どもたちと一緒にスキー合宿に行けるよう、また一年目標を持って取り組んでいきたいと思いました。ありがとうございました。



スキー合宿

ホーム長 富沢正樹

2月13日・14日、と一泊二日でスキー合宿に行ってきました。泊まりの行事自体、私自身初めての事で、とても楽しみにしていました。班を決めたり、班ごとに係を決めたり、しおりやスケジュール表を作ったり、なんだか学校の修学旅行の様な気持ちになって、子ども達と準備を進めました。

目的は、スキー技術の向上で、とにかくたくさん滑る事でしたが、当日はあいにくの雨降りでした。二日目などは、一日目よりも更に激しい雨が降り、一時は中止の危機もありました。ですが、そこはさすが愛育園の子ども達です。一日目、小雨が降る中、何本もリフトに乗って終了予定の夕方四時半まで滑り、「もう終わり?」「だいぶ上手になった」「めちゃくちゃ楽しかった」と、雨など降っていないのではと錯覚するような感想ばかりが聞かれました。すると、二日目は最初こそ雨が強かったものの、その後、晴れ間がさして、さらにスキーに没頭して楽しんでいました。

私は、スノーボードの班として、初めてスノーボードに挑戦する二人の中学生を担当しました。

スキーより、コントロールが利かず、何度も何度も転んだり、ひっくり返ったり、頭を強く打ったりして、「あきらめてしまうかな」と思ったのですが、転んだ後、すぐに立ち上がって、また、滑っていく姿がみられて、本当にたくましさを感じました。私の方は、二日目の午後ともなると、体中痛くて、とくに体力の限界だったのですが、子ども達の「まだ滑りたい。」「せっかく来たのにもったいない。」の声に引っ張られ、なんとか最後まで滑り切る事ができました。初挑戦の中学生二人も、最後には、様になった滑り方出来る様になっていて、吸収する力が本当にすごいと感じました。

ホテルでの振る舞いも、礼儀正しく、ゴミなども出さない様にしっかりと気をつけていたり、普段の生活が、公共の場でも活かされており嬉しく思いました。

また、いつもと違った場所と雰囲気、普段とは違った会話ができたりもしました。前向きに取り組んでいる事、学校の悩み、受験に対して不安があっても頑張りたい事。いつも以上に素直に話しができて、良い時間を共有することができました。

年度の終わりに、とても良い思い出を作る事が出来ました。27年度も残りわずか、良い形で28年度を迎えられるよう、今回の行事を活かしていきたいと思えます。

スキー合宿

まごころ・そよかぜホーム長 石崎早織

愛育園にとって初めてのスキー合宿が2月13日、14日に行われました。ある日の夕方のお参りで園長先生からこのことが発表されると、その時は嬉しさと驚きでまだみんなで泊まりに行くという実感が湧かなかった子ども達でしたが、泊まるホテルのパンフレットを見たり、合宿の日になり近づいてくると、とても楽しみでワクワクしていました。しかし、普段の生活が一番大切です。スキー合宿を楽しむものにするために、落ち着いて生活すること、自分がやらなくてはいけないことをちゃんとやるよう毎日言い続けました。ある小学生はスキーをやったことがなく、出来るかな?と不安もあり、だけどスキーをやってみたいという楽しみな気持ちもありました。スキーとはどんなものか、その子はすぐに学校の図書館でスキーの本を借りてきました。スキー板はどうやってつけるのか、リフトはどのように乗るのか……。本を見てイメージトレーニングです。そんな姿を見ているだけでも、子どもにとってこのスキー合宿がとても楽しみになっているのがわかりました。

スキー場までは大きなバスにみんなで乗り、目的地を目指しました。バスの中ではレク係が楽しいクイズをたくさん考えてくれ、あっという間に白馬に入り、あと少しでホテルに到着です。山を越えホテルが見えた瞬間子どもたちの歓声が上がり笑顔がたくさん溢れていました。ホテルに着き、すぐにスキーの準備です。各班に分かれスキー開始です。途中で雨が降ってきましたが、そんなことは関係なく元気に滑り続ける子ども達。初心者の子供たちはインストラクターの方に教えてもらいながら、一生懸命滑る練習をしていました。子どもは飲み込みも早く、初めてスキーをやった子どもも半日でだいぶ滑れるようになっていました。夕方には宿泊する部屋へ移動し、そのあとはみんなで温泉に入りました。そして夕食はみんなが楽しみにしていたバイキングでした。自分の食

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

べたいモノをお皿一杯に盛り、おなか一杯食べて大満足な子どもたちでした。夜はまごころ中高生だけで集まり、お茶会を行いました。普段なかなか全員が集まって話すことが少ないので、とてもいい時間を過ごすことができました。そして二日目。朝から土砂降りでもとてもスキーができる状態ではありませんでした。この雨は止むのかな……。と心配していましたが、子どもたちも楽しみにしていましたので、日程を変えながらギリギリまで待つと、なんと雨が止んだのです！！子どもたちの気持ちが届きました。雨が止んでくれたおかげで一日子ども達も、私たち職員も一緒に目一杯楽しむことができました。またスキーが苦手だった子や、初めてやった子も2日間でもとても上達し、上達の速さにびっくりしました。

今回この行事ができたのも、子どもたちが毎日頑張っているからだと思います。すべに子ども達から「また来年行けるかな〜？」という声が聞こえてきます。それだけ楽しかったのだと思います。また楽しい行事ができるように頑張ろうね！と話し、これからも充実した毎日が送れるよう見守っていきたいと思います。

スキー合宿 あおぞらホーム 保育士 佐々木 弘観

2月13日、園の皆で白馬へ1泊2日のスキー合宿に行ってきた。今年は雪が非常に少なく、時折降る雪も積もるといことがほとんどありませんでした。そのせいか、スキー場に近づくにつれ、白く染まっていく景色に子ども達は興奮し、更に宿泊するホテルを見ると、その大きさに歓声が沸きました。

現地にはお昼頃に到着しました。レンタルや宿泊の準備をしている中、子ども達は一刻も早く滑りたい！とウズウズし、待ちきれない気持ちがこちらにも伝わってくる程でした。

私の担当した子ども達は、久しぶりのスキーに最初は怖がっていましたが、一度滑り始めると夢中で滑っていました。この日は春の様に暖かい日で、雪ではなく雨が降っていましたが、子ども達にとってはそんな事は問題ではなく、もっと滑りたい！と2時間以上休憩なしで滑り続けました。

夕方、へトへトになるまで滑った後は温泉で体を癒し、おいしいバイキングで体力を回復し、明日に備えて早めに就寝しました。

翌日、起きると大雨、予報も1日中雨……。しかし、みんなの日頃の行いが良いためか、10時頃には弱まり、次第に晴れて来ました。良い天気の中を滑るのは非常に気持ちが良く、滑るのが上達した子ども達は上級コースに挑戦してみたり、よーい、どん！でみんなで競争してみたり、この2日間はとても楽しくみんなニコニコし続けていました。

ホテルでの宿泊のため、当然一般のお客さん達が居ましたが、荷物を持った人に道を譲ったり、乱れているスリッパを調べたり、きちんと片付けをする姿が沢山ありました。

子ども達からは、また来たい！という声が多く、この冬最高の思い出になったと思います。

スキー合宿 児童感想

泊まりで、白馬コルチナススキー場に行きました。到着したら、ホテルがとてもきれいで「こんな

(平成28年3月10日発行 月刊「円福」476号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

所に泊まれるのかぁ」と嬉しくなりました。

スノーボードは初めてで、最初、全然滑れませんでした。後ろから一回転して後頭部をぶつけた時は痛くて怖くなっちゃったけど、悔しくて、その後もたくさん練習しました。少しずつ左右に曲がりながら滑れるようになった時は、気持ちよくて、すごくうれしかったです。

泊まったホテルも大事に使いました。来年もまた来たら嬉しいです。(中3 H. A)

初めてスキーをやりました。最初、止まり方がわからなくて、スピードが出過ぎて怖かったです。スキーの先生に習って、「ハ」の字ですべるやり方ができるようになりました。初めてだったけどどうも滑れるようになって嬉しかったです。夜ご飯は、バイキングでいっぱい食べました。おいしかったです。また、今度も行きたいです。(小2 Y. Y)

2月13日14日は初めてのスキー合宿がありました。私はスキーをするのが初めてだったので、どうやって滑るんだろうと前から楽しみにしていて、図書館で本を借りました。頭の中でイメージトレーニングもしました。先生達に聞いたりして、滑り方を教えてもらいました。2日目は初めてリフトに乗りました。景色がすごくきれいでした。リフトから降りたあとは高い所からスキーをしました。すごい高かったので、スピードが出て一杯転びました。でもだんだんと転ばないで出来るようになりました。午後はリフトにいっぱい乗る事が出来ました。来年も行けるようにこれからの生活を頑張りたいです。

園長先生、スキー合宿の計画をして下さってありがとうございました。あとスキーの滑り方を教えてくれてありがとうございました。(小3 S・Y)

豆まきの鬼になって あおぞらホーム 保育士 藤本 諒一

二月三日は節分の日。今年も豆まきをして鬼を退治する季節がやってきました。当日は幼児さんも園内保育の先生と節分に備え準備万端です。今年も去年と同様に赤鬼、青鬼、黄鬼、黒鬼にそれぞれ職員がトラ柄のパンツを履き、お面をつけ、金棒を持って、それぞれの色を塗って、子ども達に見つからないように談話室、食堂、体育館と配置につき私は体育館で子ども達が来るのを待ちました。

談話室、食堂と豆まきを終えた子ども達が体育館にやってきました。三回ほど「鬼は〜外」と声を合わせてる時、青鬼と黒鬼の登場です。さっきまで元気な声が一瞬にして悲鳴へと変わり、先ほど退治したはずの赤鬼と黄鬼も登場して体育館の中は大混乱になりました。鬼に囲まれながら、豆を投げて勇敢に退治しようとする子、鬼に捕まらないように必死に逃げる子、園内保育の先生の背中にしがみついたり隠れたり様々でした。しばらくすると鬼は退散しました。

鬼に変装していた先生達も普段の姿に戻り、幼児さん達に豆まきの様子を聞いてみると「鬼がたくさん出てきたんだよ」「鬼を退治したんだよ」など反応はさまざまでした。

これで今年も一年、園の子ども達が風邪をひかず元気一杯に過ごせるのではないかと想います。

(2月のおもいやりは4月号に掲載いたします。)

